

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

<b>自治体提示の地域課題名</b> (注1)	No. - (事務局用)	自治体提示の地域課題名 鶴岡市の特色ある資源・文化を活用した、地域の魅力向上	自治体名 山形県 鶴岡市
<b>チームがつけたアイデア名</b> (公開) (注2)	どさいぐ?～鶴岡市の中高生と外国人観光客が生み出す魅力再発見ツアー～		

(注1) 地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

<b>チーム名</b> (公開)	昭和女子大学 鶴岡再発見！プロジェクト		
<b>チーム属性</b> (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
<b>メンバー数</b> (公開)	8 名		
<b>代表者</b> (公開)	泉川 由起(卒業生)		
<b>メンバー</b> (公開)	井原 南実、金井 莉真、中村 玲季、牧 愛純、若杉 妃菜、土肥 愛		

#### **【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2022\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

**アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認**

○

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

- ・鶴岡市の認知度が低い点
- ・観光資源は多いが、言語サポートが不十分で外国人観光客が訪れた際に十分に巡ることができない点
- ・次世代を担う地域の若者の多文化交流の機会が少ない点

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

#### I.概要（何を

**鶴岡市在住の中高生と、鶴岡市に観光に来る外国人をつなぐシステム作りを行うアイデア。**昭和女子大学鶴岡再発見！プロジェクトが外国人観光客募集のホームページ作成を行い、鶴岡在住の中高生が外国人観光客を受け入れ、鶴岡を体感する機会を創出する。なおこのプランは通年で行う予定である。鶴岡市の中高生がガイドを行うことは、地元の人が鶴岡の良さを**再発見**することに繋がり、外国人観光客にとっては**新発見**となる。専用サイトを開設し、募集等はすべてホームページで行う。

#### II.流れ（誰が、いつ、どこで、どのように）

表 1

誰が	中高生	庄交グループ	出羽庄内国際村	ANAグループ
役割	観光ガイド	ツアーの運営主体 交通手段の確保	語学面も含めたツアーサポート (同行者)	研修サポート

表 2

4月	ホームページにて中高生の募集開始、メンバー決定
5,6月	応募した生徒同士の顔合わせ、マナー研修、英語のマニュアル作成
7月	ホームページにて外国人観光客の募集開始→ガイドを希望する外国人観光客と生徒の空き状況を見てマッチング→ガイドの生徒は実際の観光客の要望に応じてプラン作成→プラン決定次第説明を兼ねて顔合わせ（オンライン上）
8月	実施、観光客・生徒ともにフィードバックを行う
9月以降	生徒はフィードバックを元に振り返りを行う →次年度に向けて課題点や感想をまとめ、提出してもらう

対象学年 鶴岡市にある中学・高校に通う生徒全員

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

表3	基準	鶴岡市認知度向上のための活動に興味があること 2週間に1度のミーティングに参加できること（90分程度）
	備考	外国人観光客がターゲットのため、英語資格に関してアンケートを行うがあくまでも調査である

4月ごろに鶴岡市の中学・高校を対象に有志を募る。(表3参照)

5月、6月の2ヶ月を使って、連携企業と生徒で2週間に1度のミーティングを行いガイドの具体的な内容や注意点について話を進めていく。連携企業に関して、庄交グループと出羽庄内国際村の協働で行う予定(承諾済)。

なお、この2ヶ月で生徒に紹介したい観光地や名所をあげてもらい、それぞれの場所毎に英語のマニュアルを作成。

実際にガイドを実施する期間は生徒の夏休み期間である8月を想定している。7月の上旬から鶴岡市在住の生徒にガイドをしてほしいと希望する外国人観光客の募集をホームページにて行う。なお応募する観光客には出身国、当日の参加人数、行きたい場所、アレルギーの有無について専用フォームから回答してもらう。料金の支払いもホームページからクレジットカード等で行うが、交通費なども含まれるためツアーごとに料金は変動する。そのためプランによって事前に金額を提示し、サイトから前払いの形でいただく予定。観光客から申し込みがあった日にガイド可能な生徒をマッチングさせ、旅行日を決定する。

旅行日が決まった段階でガイドの生徒は、観光客の行きたい場所について改めて理解を深めガイドの準備をする。また、対象の観光客によっては宗教の面やアレルギー等の理由から食べられない物がある可能性が考えられる。そのため、観光客に合わせて食事をする場所なども事前に決定しておく。生徒が具体的なプランを詰め次第、旅行日の前に生徒と外国人観光客がオンラインで顔合わせをし、そこで実際の観光プランや当日の流れを生徒から説明し、当日の集合場所など具体的な事柄を決定する。当日はガイドの生徒(外国人観光客1グループにつき2~3人を想定)と、外国人観光客、そしてサポート役の職員が会い、英語を使ってガイドを行う。サポート役の職員として、鶴岡市には「出羽庄内国際村」があり、そこでは様々な場面で通訳できる「コミュニティ通訳」というグループがある。そのため、そこをお願いしサポートして頂く予定である。

交通面…庄交ハイヤーの観光タクシー/庄内交通の観光バス

	長所	短所
観光タクシー	行きたい場所に応じて移動可能	値段が高額
観光バス	通常のバスと同じ金額のため費用を抑えられる	本数が限られている

→庄交グループが中心となり実施することで、交通面に関して調整することができる。

### Ⅲ. 事前研修

主体：ANA 庄内ブルーアンバサダー、鶴岡再発見！プロジェクト

ANA 庄内ブルーアンバサダーが以前からマナー研修などを行なっていること、また本業は客室乗務員であるため、頻繁に使用する英語のフレーズを含めた動画を作成していただき事前研修として動画を見ながらワークを行う。

### Ⅳ. ツアー実施後の流れ

ツアーが終了次第、外国人観光客・ガイドの生徒にアンケートを行う。当日やってみて感じた課題や改善点などを調査し、今後の参考とする。9月以降、生徒は2週間に1度ミーティングを行う。ここでは次年度に向けて改善すべき点や良かった点などを文書で提出してもらい、次年度以降に実施する際に引き継げるよう体制を整えていく予定。

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

私たちは日本の地方観光を鶴岡から生み出そうと考えている。

- 1) 鶴岡市では①認知度の低さや②観光地化するには交通手段の少ないことが課題としてあげられる。
- 2) それには①鶴岡を訪れたいくなるような目新しいサービスの展開、②観光をするハードルを下げられるような交通手段の充実が必要であると考えた。

#### 1. 認知度の低さ

鶴岡市と聞いてピンと来る人はどのくらいいるだろう。日本の多くの地方都市の課題には認知度不足があるように、山形県鶴岡市の認知度も決して高くはない。若者からの認知度は特に低く、アンケート結果によると**本学附属高校生の83%が知らない**と回答、**本校に留学している留学生は100%が知らない**と答えた。

しかし、実際に訪問すると、観光資源が豊富であることはもちろんのこと、海と山に囲まれた自然豊かな鶴岡市は時間がゆっくりと過ぎ、東京で人に揉まれ忙しく過ごしている私たちにとって最高のリフレッシュ空間であった。いわゆる若者の女子大学生である私たちにとっても**観光地としてとても魅力的な場所**で**また訪れたいと思えた**ことから鶴岡を何も田舎で留めておかず、**この魅力を多くの人に伝えたいと思った**。

#### 2. 交通手段の少なさ

東北一の面積を持つ鶴岡市は日常生活において自家用車が必須である。私たちが現地研修に訪れた際は市役所の方にバスを出してもらい不便なく移動できたが、自分たちが個人旅行の観光客として訪れた際「**どのように移動すればいいのだろう**」というのが率直な疑問だった。バスは1時間に1本程度であるためバスでの移動で観光スポットを巡るのは厳しく、レンタカーを借りるかタクシーを利用するかのどちらかである。しかしレンタカーでは免許を持っている人しか旅行することはできない。さらには現地研修中、タクシーが走行しているのを見なかったことから、東京のように簡単にタクシーを利用することは厳しいと感じた。

⇒**個人客で訪れても不便なく移動できる交通手段の需要がある**と考える。

#### なぜ観光に着目したか

1. **コロナ以前の平成19年から平成30年**によると観光客数が増加傾向にあること。このことからコロナが緩和されてからも観光客数は増加すると考え、観光における新たなサービスを生み出す価値があると考えた。（出典:鶴岡市経済動向）

2. 外国人向け日本情報サイト「ガイジンポット（GaijinPot）」において、**2019年に外国人が訪れるべき日本の観光資源ランキング「TOP10 JAPAN TRAVEL DESTINATION FOR 2019」**の中で鶴岡市が**第8位**に選ばれていること。

鶴岡は日本初のユネスコ食文化創造都市であるだけでなく、現在・過去・未来に見立てられた出羽三山、殿様の末裔（酒井家庄内入部400周年）が今も暮らす街、サムライゆかりのシルクなど、伝統文化が継承されていることや、加茂水族館、羽黒山神社、温泉など

観光客数

鶴	
区分	総数
平成19年度計	4,991,600
平成20年度計	4,636,600
平成21年度計	4,751,900
平成22年度計	5,468,100
平成23年度計	5,289,200
平成24年度計	5,382,900
平成25年度計	5,234,100
平成26年度計	7,086,200
平成27年度計	6,941,200
平成28年度計	6,595,300
平成29年度計	6,312,700
平成30年度計	6,370,400

日本らしさを味わうことが出来るという点で外国人にとっての魅力が十分である。まずは外国人を対象とした観光地として注目を集めることで認知度向上のきっかけを創出したい。

なぜ中高生ガイドの需要があるのか

1. 外の人の発見は地元の人の再発見

今回私たちは鶴岡市を含む庄内地域で活動している ANA 庄内ブルーアンバサダーと協働でプロジェクト活動に挑んだ。ブルーアンバサダーから「地元の人にとって当たり前なのが私たちのような外の者にとってはそれがすごく魅力的に感じることがある」と伺い外の人の発見は地元の人の再発見を促すということに気が付いた。また現地研修ではブルーアンバサダーが鶴岡の様々なことに興味をもって質問をするため、地元の方々はとても嬉しそうだったのが印象的であった。私たちが現地の人と関わりながら鶴岡市を巡ることでより深く鶴岡市を知ることが出来たと同時に、地元の方々の温かさを感じたからこそ鶴岡が恋しく第二の故郷のように感じる事が出来たのだと思う。ぜひ外国人観光客にも日本の風景、料理、観光地だけでなく、地元の人と巡ることで忘れられない心温まる日本の田舎体験をしていただきたい。

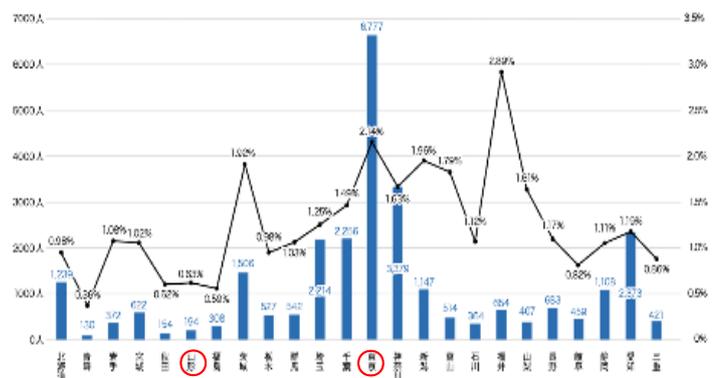
2. 中高生にとって貴重な外国人との交流機会を作りたい

「留学生や外国人観光客が少ない地方地域では、都市と比べて多文化交流の機会が少なく、東京の大学に入学してから周りとの経験の差を感じた。」

—地方出身メンバーからの意見だった。

文部科学省のトビタテ留学 JAPAN の都道府県別海外留学率によると東京都は **2.14%**であるのに対し、山形県は **0.63%**と割合が低い。これは鶴岡市の生徒たちも多文化交流の機会が少ないのではないかと考え、鶴岡市にある高校 (\*鶴岡南高校) に通う 1・2 年生にアンケートを実施し **315 件**の回答を得た。外国人との交流機会があるかという質問に対して **83%**の生徒が交流機会がないと答え、トビタテ留学 JAPAN の数値と比べてもこの

○ 都道府県別海外留学生数、生徒100人当たりの人当たりの海外留学率 (平成29年度)



アンケート結果は論証性が高いと言える。また、比較するために同アンケートを本学附属高校 (\*昭和女子大学附属昭和高等学校) の生徒で実施したところ **86 件**の回答を得て、附属高校の生徒 **51.2%**が国際的な仕事に興味があると回答したのに対し、鶴岡の生徒で国際的な仕事に興味があると答えたのは **40.3%**と低かった。外国人との交流機会の違いによって生まれた回答の差なのではないかと推測し、この経験を経ることによって世界を見る目を養い将来の選択肢の幅を広げられる可能性があると考え。さらに、なかなか学校で習った英語を実践する機会がなく、この経験で外国人と英語でコミュニケーションを取ることの楽しさを感じてもらいたい。

よってこのプランを実施することで鶴岡市の認知度向上とともに地元の方々の再発見と学びも得ることが出来る、とても有効的なプランだと考える。

\* 鶴岡南高校：市内一の進学校でスーパーサイエンスハイスクール指定校

\* 昭和女子大学附属昭和高等学校:スーパーグローバルハイスクール

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

#### ＜1.実現する主体＞

##### ○全体設計、環境整備

昭和女子大学鶴岡再発見！プロジェクト  
鶴岡市商工観光部商工課/鶴岡市東京事務所  
全日本空輸/ANA あきんど株式会社

##### ○試行段階

昭和女子大学提携のテンブル大学ジャパンキャンパス  
鶴岡南高校

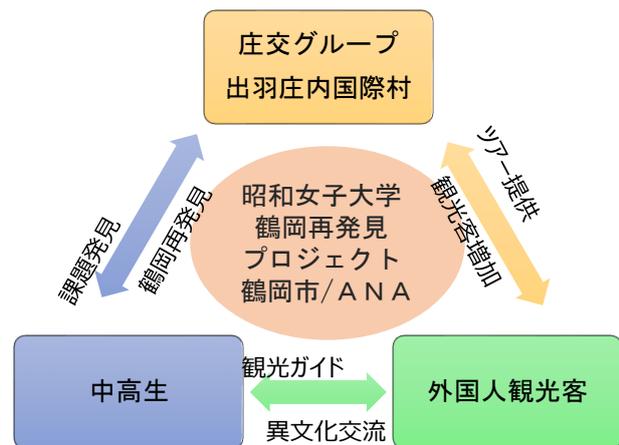
##### ○サービス運用主体

旅行業登録をしている会社 →ガイドツアーを行う際、料金を集める場合は旅行業登録が必要なため。  
この上でお願いし許可も済んでいる会社は、庄交グループ。  
また語学サポートの面から出羽庄内国際村との協働運用で想定している。

##### ○サービス利用主体

訪日外国人観光客

（このプランでは様々な外国人が自身の希望するツアーに柔軟に対応できることが売りのため、年齢や国籍など決めず、あえて外国人と幅広くとっている。）



#### ＜2.アイデアの実現に必要な資源＞

##### ○ホームページ

昭和女子大学鶴岡再発見！プロジェクトチームがホームページを作成し、庄交トラベルの方にリンクをのせてもらう。  
ホームページは第三者に委託せず自分たちで作成するため、費用はかからない。

##### ○広報

外国人対象の中高生ガイドツアーはあまり事例のないものであるため、それを売りに動画を作成し YouTube などで海外に発信。また、昭和女子大学鶴岡再発見！プロジェクト公式のインスタグラムを活用して発信。こちらのインスタグラムでは過去に1つの投稿に対して1500人以上の方が見てくださったこともあり、広報として有効であると考え。また鶴岡市では国際姉妹都市を結んでいるため、その都市には鶴岡市役所の方から宣伝をお願いする。さらには中高生ガイドを募る手段として、現地研修でもお世話になった山形新聞社と連携し応募推進を図る。

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### ○中高生ガイドのレクチャー

ガイドするにあたっての基本的な接客マナーは全日本空輸にご協力賜り、動画を撮影し、そのレクチャー動画を毎年応募してくれた中高生に見せて教える。このプロジェクトは全日本空輸と連携しているため、動画作成に費用は要しない。また中高生ガイドが定期的に行うミーティングはオンラインで考えており、昨今の中高生はスマートフォンやタブレットなどを持っているため、ZOOMなどをダウンロードしてもらいミーティングを実施する。このミーティングには、出羽庄内国際村の方にサポートとして入って頂く。

### ○ツアー

ツアー参加費用は事前にインターネット上で決済してもらおう。料金としては、施設などの入館料・交通費・体験費・サポートする人の人件費を含めた価格設定とする。

どこを巡るかはツアー参加者の要望に沿う形にするため、料金はひとりひとり多少差異がある。人件費については、これから協力して頂く出羽庄内国際村と検討する。

また庄交グループで行うため、ツアーの移動手段はバスもしくはタクシーを用意する。この交通費は関係する庄内交通や庄交ハイヤーなどと連携し、少しでも価格を抑えられないか検討する。

このプランの立ち上げ費用は、公益信託庄内銀行ふるさと創造基金助成事業（上限40万円）への応募を検討。

### ＜3.アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス＞

時間軸とプロセス	詳細
2023年 1月～4月 準備	<ul style="list-style-type: none"><li>・協力して頂く企業/団体とのミーティング</li><li>・ホームページの作成</li><li>・レクチャー動画の作成</li></ul>
2023年 5月～9月 試行	<ul style="list-style-type: none"><li>・試行するために今回ご協力頂いている鶴岡南高校の生徒を対象にガイドの募集をかける。</li><li>・対象となるツアー参加者を、試行段階では昭和女子大学と提携しているテンプル大学の学生に焦点をあて、募集をかける。（昭和女子大学鶴岡再発見！プロジェクトメンバーがテンプル大学の学生に宣伝）</li><li>・ホームページの試験運用</li><li>・高校生にレクチャーを行なった上でプランをたててもらい、夏休みの期間にツアーを実施。</li></ul>
2023年 9月～2024年 3月 改善	<ul style="list-style-type: none"><li>・試行段階で見えた問題点などをフィードバックし、本格運用に向けて、さらにブラッシュアップする。</li></ul>
2024年 4月～ 開始	<ul style="list-style-type: none"><li>・鶴岡市内の中高生/ツアー参加者を募り、本格的に運用開始</li></ul>